



認定NPO法人環境ネットワーク埼玉通信



# E・N・S通信

No.40



埼玉県地球温暖化防止活動推進センター

Saitama Center for Climate Change Actions

## Index

表紙寄稿 袖野 玲子氏  
 第7回 SDGs エコフォーラム in 埼玉  
 家庭向け省エネ取組への支援  
 中小企業向け省エネ取組への支援  
 彩の国埼玉環境大賞が決定  
 埼玉県地球温暖化防止活動推進員  
 事務局からのお知らせ



## 私たち一人一人の消費行動が世界を変える

芝浦工業大学 教授 袖野 玲子

近年、国際情勢の不透明感が一層高まっています。とりわけトランプ政権下で顕在化した「自国ファースト」の姿勢は、気候変動など環境分野の国際協調に影を落としています。しかし、こうした状況だからこそ、私たち一人一人の足元での取組が、これまで以上に重要になっていると感じます。

私の研究室では、脱炭素と循環型社会の実現に向けた環境政策や制度を研究しています。自治体や企業のSDGs政策の分析、環境配慮行動の心理構造モデル、再生可能エネルギーの普及方策、廃棄物の管理・削減策、再生資源の動静脈連携などに取り組んでいます。今年度は、例えば、食品ロスを削減するため、規格外野菜に着目し、大学内での野菜マルシェの開催や子ども食堂への寄付の実証的な取組や、消費者と農家をつなぐシェアリングサービスの可能性を検討しました。食品ロス削減施策の政令指定都市間の比較分析では、さいたま市の一人当たりの食品ロス発生量が最も少なく、これはさいたま市のフードバンクや地域連携など多様な施策だけでなく、市民や事業者による日常的な取組の積み重ねによる成果だと考えられます。

埼玉県民の力が、持続可能な社会への大きな原動力になることを期待しています。





## 第7回SDGsエコフォーラムin埼玉を開催しました！

第7回を迎える恒例の「SDGs エコフォーラム in 埼玉」(エコフォーラム)を12月14日(日)大宮ソニックシティで開催しました。当日は約340人の方に参加いただき大変盛況に終わることができました。エコフォーラムは実行委員会形式で、企画・調整・準備・当日運営・報告書の作成等、推進員を始め市民参加で開催している環境イベントです。

今回は、基調講演にNHK エンタープライズ エグゼクティブ・プロデューサーの堅達 京子様にご登壇いただき、「共に拓く未来～脱炭素に向けていま私たちができること～」と題してお話をいただきました。堅達氏は20年近く気候変動の取材を続けられており、世界の温暖化の影響や直近で開催されたCOP30についてご紹介いただきました。さらに、ティッピングポイントと言われる不可逆的な変化が起きる転換点・臨界点を超えてしまうと、人類の削減努力では改善できなくなるような気候システム上の激変を招きかねない瀬戸際に今きており、2050年くらいまでに現実になる可能性が高くなっていると力説されました。



気候変動に対して私たちにできることは、再エネの導入、暮らしにおいては国連の「1.5℃の約束」をあげられ、EVの導入や建物の断熱化が重要と述べられました。特に、環境教育の重要性を強調され、気候変動について学べる教材ショートアニメ「FUTURE KID TAKARA」をご紹介いただきました。脱炭素社会を実現していくためには、問題解決に向かう知恵を出していくマインドを小さいころから育てていくことと家庭での会話が大事だと述べられました。



最後に強調されました、「脱炭素社会の構築は気候変動に取り組む覚悟が、今、私たち一人ひとりに問われている」という言葉が私たちの心に強く刺さりました。この講演は、当団体のHPから視聴することができます。ぜひ、ご覧ください。

<https://kannet-sai.org/about/activities/2025/1214.html>

午前中は、基調講演後に埼玉県温暖化対策動画コンテストの表彰式を行い、温暖化防止に関するユニークでアイデアあふれる動画に知事賞やコバトン賞等が授与されました。

午後は、5つの分科会を設定し、テーマ「省エネ住宅の省エネを“誰が”“どう”するか考えてみる」、「水辺の生き物と生物多様性」、「資源循環・サーキュラーエコノミーを考える」、「新次元の気候変動に挑む都市の知恵」、「若者が創造する脱炭素な未来」に分かれて、高校生からシニアまで参加し、各分科会で先進的な事例紹介による学習や課題解決に向けて白熱した議論が交わされました。参加者からは、“もっと多くの人に参加してもらいたい(内輪の会ではもったいない)”や“もっと多くの若者の参加を”等様々なご意見をいただきました。次年度も開催する予定ですので、ぜひ皆様のご支援や積極的なご参加をお待ちしています。





## 家庭向け省エネ取組への支援

### ◎埼玉県家庭の省エネ相談会を開催しました！

今年度も埼玉県の委託を受けて、県内8カ所で「埼玉県家庭の省エネ相談会」を開催しました。商業施設での環境イベントや自治体の環境フェア等に出展し、856人に家庭の省エネに関するライフスタイルへのアドバイスをを行いました。研修を受けた省エネ相談員がイベント来場者を対象に、省エネの取組方法や削減効果を説明。さらに、暮らしの中での省エネ取組アンケートに回答いただいた方には、改善点等のアドバイスをを行いました。今年度導入しました“タブレット”でアンケートに回答いただく新たな試みも始めました。アンケート結果からは、“冷蔵庫にものを詰め込み過ぎない”、“節水シャワーヘッドに交換”等の取組が50%以上の人ができていると回答、特に“保温ジャー・電気ポットの長時間の保温はしない”は80%以上の人が日常的に実施していました。反対にエアコンのフィルター清掃や家電を使わない時は主電源を切るかプラグを抜くが半数の人ができているということが分かりました。日々のちょっとした省エネへの心がけと行動が、エネルギーの削減や光熱費の削減に繋がるのだと思います。



### ◎埼玉県家庭の省エネ実践講座を開催しました！

県内、北は羽生市から南は草加市まで7カ所の商業施設や自治体の施設等で、「埼玉県家庭の省エネ実践講座」を開催し、167名に参加いただきました。相談会と違って、家電の省エネ、太陽光発電導入や窓断熱のリフォーム等、CO<sub>2</sub>削減効果の高い取組を紹介し具体的に導入していただくことを目的に、専門家(東京電力、NPO法人太陽光発電所ネットワーク、マテックス(株)等)による解説と理解促進のための体



験型ワークショップを行いました。体験型ワークショップでは、太陽光発電については、太陽光発電モバイルバッテリー作りやソーラーカー作り。断熱については、ミニハウスを組み立てながら開口部の熱の移動や



断熱のポイント、室内の風の流れなどから、住まい方の工夫を学びました。事後アンケートに協力いただいた結果から、講座受講後、実際に太陽光発電を導入された世帯がありました。エネルギー事情が不安定な今、使用するエネルギーを減らして、自然由来のエネルギーを創りだして使うことが、これからの安全安心かつ脱炭素な暮らしに繋がるのだと思います。



## 中小企業向け省エネ取組への支援

### ◎中小企業向け省エネ診断と支援

当団体は、長年中小企業の省エネ取組支援を行っています。今年度も、埼玉県和省エネナビゲーター診断、国の省エネお助け隊の事務局を担いました。両事業とも、中小の事業所に訪問しウォークスルー診断を行うものですが、省エネお助け隊はさらにIT診断や省エネ診断後の伴走支援も行います。今、サプライチェーン全体で脱炭素に向かって二酸化炭素の削減という動きが始まっており、中小企業にとってもサプライヤーからの実質的なエネルギーの削減が求められています。そのような社会状況の中で診断の申込みも多く、両事業合わせて、約50件の省エネ診断又はIT診断、伴走支援を行いました。事務局として、診断を行う専門家の派遣調整や診断を行うためのデータ取得、また日常的な電話相談や展示会等での相談への対応等、日々中小企業の課題や悩みに対し支援を行っています。県の省エネナビゲーター事業では、省エネ事例発表会(省エネセミナー)を2回開催しました。県内の先進的なCO<sub>2</sub>削減の取組事例をとおして、多くの中小企業の方々に省エネ取組のポイントやノウハウについて理解いただき、自社の取組につなげていただきました。



### ◎中小企業のための脱炭素経営セミナーを開催しました！

埼玉県SDGs官民連携プラットフォームの分科会「カーボンニュートラル推進分科会」が開催する“中小企業のための脱炭素経営セミナー”の運営を行いました。今年度は3回シリーズで、いずれも基調講演、事例発表、カーボンニュートラルビジネス交流会等、盛りだくさんの内容で多くの中小企業の方々に参加いただきました。特に、3回目に開催しました「脱炭素を進めるための社内における機運醸成と意識向上」では、脱炭素を企業が進めるにあたり、スタッフの意識向上や機運をどう盛り上げ取組につなげていくかというお悩みに対して企画しました。講演では「盛り上がる！長続きする！脱炭素が進む組織づくりのポイント」と題し、一般財団法人省エネルギーセンターマネージャー鈴木 伸隆氏より、これからはITの導入を進め利用する時代が来るので、中小も活用を検討したほうが良いとのアドバイスもありました。3回目は特に、県内中小企業の経営者、幹部社員、担当者等に集まっていただき、“社員の機運醸成と意識向上を高める”というテーマでワークショップ(Ws)を開催しました。和気あいあいの中で企業同士の交流の場にもなり、アンケート結果からは“様々な視点での意見があり多くの気づきを得た”、“会社に持ち帰り社内でWsを実施したい”等の感想が寄せられました。組織全体で取り組んでいくことが達成の鍵となるのだと思います。





## 彩の国埼玉環境大賞が決定しました！

彩の国埼玉環境大賞は、環境保全に関する意識の醸成及び行動の促進を図るため、個人、各種団体及び営利法人等における他の模範となる優れた取組等を表彰し、その功績をたたえるものです。埼玉県、(株)テレビ埼玉、当埼玉県温暖化防止活動推進センターが主催となって27年間取り組んできました。令和7年度は審査会を経て受賞者15組(大賞2組、優秀賞8組、奨励賞5組)が決定し、2月4日に知事公館にて表彰式が行われました。

### 大賞 県民部門

#### 埼玉工業大学 環境物質化学研究室

廃棄されるユリの茎からの和紙づくりと資源循環・環境教育の実践

ユリ栽培が盛んな深谷市で、出荷時に大部分が廃棄されていたユリの茎を未利用資源として着目し、和紙にする技術を開発した。地元の酒蔵と連携し、ユリ和紙のラベルを付けた日本酒を限定販売。またSDGsと県内の伝統和紙(細川紙)を実地で学ぶ機会を提供するため、小学生や高校生向けの和紙づくり体験教室も実施。これらの取組は新聞各紙にも紹介され、資源循環と環境意識の醸成、人材育成に寄与している。



### 大賞 事業者部門

#### 株式会社 PEC

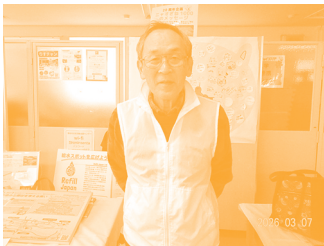
地球にやさしい「地中熱」を活用したさくらげ工場の運営

地中熱ヒートポンプの施工技術を活かし、地中熱を活用したさくらげ工場を建設。さくらげはほとんどが外国産であり、国産のものは珍しいため、桶川市のふるさと納税の返礼品として採用されているほか、地域のイベントや道の駅で地元の名産として販売するなど、地域の発展に貢献。

また、自社さくらげ工場をモデルとし、他の農産物生産事業者向けに、地中熱ヒートポンプシステムによる農産物工場の提案を行っている。



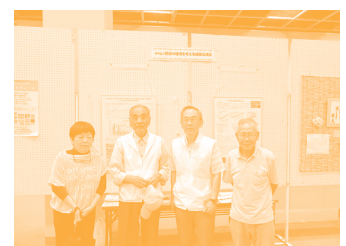
## 埼玉県地球温暖化防止活動推進員(推進員)のご紹介



今回は夏の暑さで有名な熊谷市にお住まいの江原 仁さんをご紹介します。江原さんは、埼玉県と熊谷市の推進員として10年以上活動し、地元ではNPO法人熊谷の環境を考える連絡協議会(略称:くまかんれん)の会員としても活動しています。これまで公民館等で「地球温暖化と私たちができること」というお話をされる中で、熊谷における温暖化の状況について説明してきました。昨年は熊谷市のエコライフフェア、ニャオざね祭り等で温暖化のパネル展示や温暖化クイズ、ダンボールコンポストの紹介などを行い、市民の方に少しでも状況を理解してもらおうと取り組みました。

また、ゴーヤ等を用いた緑のカーテンの効果調査を7~8年行った結果、緑のカーテンの有る無しで気温が5~6℃も違うことがわかりました。緑のカーテンがある家を探し測定をさせていただいていると、時にはゴーヤのジュースをいただくという特典もありました。さらに、中小企業の省エネ専門家として県内の工場や福祉施設等を省エネ診断し、二酸化炭素削減とコスト削減のお手伝いもしています。

残念ながら?熊谷は日本一暑い街からは外れましたが、夏が暑いことは間違いなく、今後が思いやられる状況です。温暖化懐疑論もありますが、温暖化の影響が少しでも悪化する可能性があるのなら、将来世代のためにも活動は続けていきたいとのことです。江原さん期待しています。





## ● 事務局からのお知らせ

### 予告 令和8年度通常総会と講演会のお知らせ

**日時** 令和8年6月13日(土)

**会場** 埼玉会館4A会議室

**【講演会】** 午後1時30分～午後2時30分

**テーマ** 「中世武蔵国絵図から読み解く埼玉エコヒストリー」

**講師** 神谷 博氏

法政大学エコ地域デザイン研究センター・法政大学江戸東京研究センター客員研究員

**【総会】** 午後3時～

**議案** 事業報告、活動決算、事業計画、活動予算、役員選任

※講演会はどなたでも視聴できます。ぜひ、ご参加ください。

### 表紙の説明

山形県の日本海岸沿い酒田市から鶴岡市の間を車で走っていると、多数の風車が一齐に回っており圧巻でした。Wind ファームの名称は分かりませんが、風力や太陽光等の再生可能エネルギー導入により地域の脱炭素及び地域経済の活性化に貢献されることを期待したいと思います。



### ● 賛助会員・寄付募集

認定NPO法人である当団体へのご寄付及び賛助会費は、税制優遇措置の対象となっています。所得税、法人税、相続税、一部の自治体の住民税において、それぞれ定められた条件を満たすことで優遇対象となります。詳しくは、ホームページをご覧ください。

<https://kannet-sai.org/about/member/tax.html>

引き続き、皆様のご支援ご協力をお待ちしています。

令和7年度も多くの方に寄付をいただきました。ありがとうございました。



### 編集・発行

発行日 令和8年3月31日

埼玉県地球温暖化防止活動推進センター／認定特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉

〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和5-6-5埼玉県浦和合同庁舎3階

TEL：048-749-1217 FAX：048-749-1218

<https://kannet-sai.org>

閉館日 土・日・祝日、12/29～1/3 開館時間 9:00～17:00

情報やお知らせ等、是非お寄せください

